

『花を訪ねて： 水芭蕉』

## 尾瀬沼・尾瀬ヶ原散策 (平成 30 年 5 月 29 日～31 日)

尾瀬沼、尾瀬ヶ原付近の水芭蕉を見に行きたくなって、昨年 12 月の忘年例会で提案したところ、何名かの参加希望者がおられたので、会の正式行事として計画することになった。水芭蕉の時期は、土日曜日では非常に混むので、平日に行くことで了解を得た。計画は小生の案で、沼山峠口から入り、尾瀬沼、尾瀬ヶ原、鳩待峠へ抜ける 2 泊 3 日の予定だ。

参加予定者は 5 名だったので、3 月 1 日に尾瀬沼ヒュッテと山の鼻の尾瀬ロッジに、男女別々の 2 部屋で予約した。始めに手を挙げていた人達も、都合が悪くなって行けなくなってしまい、結局アガサ・クリステイの推理小説「そして誰も居なくなった」ではないが、「そして誰も集まらなかった」ということになり、小生一人になった。それで、浅草駅 6 時 30 分発の「リバティ会津 101 号」にした。これだと沼山峠口に 12 時に着くので、尾瀬沼へ行ってからもゆっくりできる。5 月 15 日にバスの田島営業所に電話をして、開通予定を訊いたら 19 日とのこと。24 日に TV、新聞などでようやく尾瀬の山開きが行われたことが報じられた。

29 日は 5 時 00 分発の始発電車で浅草へ向かう。乗換がうまくゆき、6 時前に東武浅草駅に到着、早速予約の乗車券を購入する。電車は後 3 輦が日光行き、前 3 輦が野岩鉄道経由で会津田島まで行く。車輦はがらがら、1 号車には若干乗客が居たようだが、後の 2 輦には小生のみだ。途中で少し乗ってきたようだが、平日はこんなものなのだろうか。全く予約など必要なかった。

発車後すぐ左手、隅田川向うに東京スカイツリーが見える。あれで高尾山より高いとは少し思えないが。幸い薄日が差してきた。下今市で後 3 輦を切り離す。新藤原から野岩鉄道に乗り入れ、単線になる。レールも細くなるのか、カタン、コトンという継ぎ目の音も少し高くなった気がする。山の中に分け入るので、カーブが多く、速度も落ちる。とにかくトンネルが多く、長い。トンネルの中の駅もあった。会津高原尾瀬口駅手前の長いトンネルの中で、分水嶺を過ぎて福島県に入る。速度と車輪の音が軽快になったことで上りから下りになったことが分かった。

9 時 50 分発の沼山峠口行きのバスは乗客が 7 名ほど、リュックを背負った終点迄の人は小生を入れて 3 名。バスは山中を抜けて、峠を越え田島地区の部落に入ると民家の庭にアヤメ、ルピナス、マーガレット、藤、芝桜、玄海ツツジ、紫蘭、オダマキ、濃い橙色のポピー など色鮮やかになった。

11 時 25 分に御池に到着。駐車場にはかなりの自家用車が停まっていたが、この前の土曜には約 130 台、日曜には 200 台が入って、大混雑だったとか。ここから夫婦 2 組、バイクのお兄さん 2 人が乗ってくる。ここから専用道路になり、定刻 11 時 50 分に沼山峠口バス停に到着。そう言えば、2014 年 9 月 28 日、尾瀬ヶ原の草黄葉を見た帰り、ここで御嶽山の大噴火のニュースを聞いたんだっけ。

皆さんは直ぐに登りだしたが、小生はここで休憩・昼食を摂る。尾瀬口からの人で長靴を持った人が居たので、訊いてみると木道歩きには長靴が最良と。地下足袋も良いが釘など踏み抜くと怖い（破

傷風になる)。普通の登山靴も滑るよと教えてくれた。

小生は最後で、12時15分に出発して、シラビソの針葉樹やブナの林の中の石畳、木道をゆっくり登る。峠に近づくと樹間から頂上付近に雪が残った燧ヶ岳が望めた。足元には僅かに雪が残るが、極少ない。周りは高い針葉樹から白樺、ナナカマドなどの落葉広葉樹の林に変っていて明るくなっている。オオカメノキ、ミネサクラなどの花が咲き、ウグイス、カッコウの鳴き声が聞こえる。平坦な沼山峠頂上を少し下って、12時50分に僅かに尾瀬沼が望めるだけの展望台に着いた。そこで休んでいた竜ヶ崎から来たというご夫婦(70歳)は、車で来て桧枝岐に泊り、尾瀬沼の水芭蕉を見てこれから帰るといふ。この辺でも既に帰る人達に会う。御池に駐車して、日帰り往復する人が多いらしい。

峠までの木道は交換して間もないものだったが、下りになるとかなり傷んでいて、折れて穴が開いていたりした。13時25分、大江湿原に到着。ミネサクラと水芭蕉群落に逢う。薄いピンクと白色のコントラストが良い。水芭蕉は湿原一面にあるのではなく、全くない部分が多い。花・葉はまだ小さいが苞が既に茶色っぽくなっているのもある。前の日曜日辺りが最盛期だったよしだが、今年は積雪が少なく、また暖かかったために、雪の布団が溶けてしまった後に霜に遭い、霜焼けを起こしたせいが多いのだろう。地元の人も例年より10日は早いと言っていた。

湿原にはショウジョウバカマ、タテヤマリンドウ、ワタスゲの穂もちらほら見える。また水辺にはリュウキンカの黄色の花が、水芭蕉の白と映える。湿原の途中で2人の若者が戻ってくるのに会った。バイクのツーリングで、若松から日帰りで水芭蕉を見に来たと言っていた。

14時に尾瀬沼ヒュッテ(桧枝岐村営)に到着した。燧ヶ岳を望むマウンテンビューの部屋に荷物を置いて、散歩に出る。沼越しに燧ヶ岳の全容が真近かに望める。素晴らしい。尾瀬沼の周りには新緑のカラマツの高木が多い。また、青紫色のシラネアオイの一株を見つけた。タラノメの木を沢山見つけたが、ここでは採るのを禁止しているのだろう。タラノメは天ぷらにすると美味しいが、一度芽を採ってしまうとその枝は枯れてしまう。

尾瀬沼ヒュッテの今日の宿泊者は全20名、夫婦者が多いが、1名組は3名で同じテーブルだった。一人は立川から来て、鳩待峠→ここに泊り→明日大清水→上毛高原→大宮→武蔵野線→立川へと帰るといふ。もう一人は御池に駐車して明日帰るといふが、度々来ているらしい。趣味のカメラ機材など約20kgの荷物を背負っていると。

尾瀬沼ヒュッテには、動力線が大清水から来ており、自家発ではない。また建設資材や食料などはヘリコプターで搬入するそう。またし尿はバイオで分離、脱水して軽量化してヘリで搬出すると。し尿処理方式は見晴、山の鼻なども同じらしい。

2日目、30日(水)は高い雲があるが、やがて晴れてきそう。7時に尾瀬沼ヒュッテを出発する。ゆっくり沼畔の木道を歩く。沼山峠へ向かう年配女性2人組とすれ違う。見晴でキヌガサソウを見つけたと教えてくれた。期待しよう。湿地にはコバイケイソウ、ヒオウギアヤメの芽が出始めている。ナナカマドはもう蕾を持っている。ウグイス、カッコウ、それに“ギッチョ、ギッチョ”という鳴き

声が聞こえる。朝の少し寒いくらいの気温と爽やかな空気が気持ち良い。

写真を撮りながらゆっくり歩いているので、沼尻（ヌシリ）には8時に到着した。そろそろ見晴から来た人達とすれ違う。ここから岩ごろで水も流れている急なガレ場を登る。ほんの10分位の距離だが濡れた岩は滑るので大変だ。登り終わると石砂峠で本日の最高点（海拔：約1690m）。ここからは針葉樹と落葉広葉樹の混じった林の中の結構岩ごろの下り道になる。「段小屋坂」と云うそうだ。オオカメノキの白い花が目立つ。足元には20~30cmの多くの若木、エンレイソウが生えていた。また白山石楠花、ナナカマドも既に蕾を着けている。木道は傷んでいる所も多く、2本木道が無く、1本木道の所もあるので、土日曜日には渋滞するだろうなと思った。道の後半は石が少なくなり、モミジ、白樺、ナナカマド、オオカメノキなどの広葉樹の林になり、気持ちよく歩けた。

10時少し前に見晴に到着。燧小屋の前に蕾のミツバツツジ、満天星ツツジ、などが植えられており、シラネアオイの青紫の花と、真白のキヌガサソウ（2株だけ）を見つけた。小屋の前でボッカ（歩荷）さんが休憩していた。ここでは（見晴では）ボッカさんは健在なのだ。1.5m位に高く重ね、80~120kgの荷を背負って歩くが、1日1回運ぶと言っていた。十分休憩を取り、10時40分に出発。このあたりには水芭蕉はあまりなく、リュウキンカ、ショウジョウバカマ、チングルマ、タテヤマリンドウなどの花が咲いている。ヒオウギアヤメの新芽、吾亦紅の若木、モウセンゴケなども目につく。

11時10分に竜宮に着く。この付近には水芭蕉が多く見られたが、ここは木立の中なので葉は既に大きく育っていた。ここまで来ると山の鼻方面から来る人が多くなってきた。水辺にはイワイチョウの花があった。「下の大堀川」畔には水芭蕉の群落が望めたが、少し離れているのでパスした。

12時少し前に牛首分岐に着いた。ここには少し広いベンチがあり、大勢が休憩していた。その中には台湾、中国からの団体数組約30名と日本人団体数組がいた。これまで外国人は全く見かけなかったもので、初めて会ったことになる。彼等団体は鳩待峠から日帰りて来たようである。昼食を食べていると小雨が降ってきたので、合羽を着て山の鼻へ向かう。雨が来たが向うから来る人も多い。

池塘があちこちにあり、7月になるとヒツジグサ、コウホネの花が見られるのだが。上田代付近には水芭蕉の群落がある。こちらの方が尾瀬沼付近より育っていて大きい。また茶色になった苞も目立つ。水辺に海棠と思われる蕾を持った花木を見つけた。木道が濡れて滑るのでゆっくり注意して歩きたいが、雨に追い立てられて歩く。13時に尾瀬ロッジに到着してしまったが、チェックインは14時からなので、ロビーで待つことになった。部屋は至仏山を目の前にしたマウンテンビューだった。雨が止まないで部屋で休憩。夕食はここでも17時から、宿泊客はたったの15名だった。

第3日、31日（木）は4時に起きだしてしまっ、4時40分に散歩に出かける。幸い雨は止んだが少しガスがかかっていた。濡れた木道を、燧ヶ岳を眺めるために牛首方向に歩く。至仏山の方は晴れているのだが、燧ヶ岳には頂上に雲が掛っている。丁度薄雲を透かして、燧ヶ岳の右肩あたりに太陽が出てきた。雲は動いているので切れるまで暫く待った。尾瀬ヶ原には朝もやがたなびいている。丁度池塘のところで、“逆さ燧ヶ岳”を眺めた。暗いのと少し風があるので、明瞭には見えないがやむをえない。カッコウと蛙の鳴き声はげしい。

6時から朝食を摂り、6時40分にリュックを置いて空身で、「尾瀬植物研究見本園」に行く。1周約1kmの円形の湿原地で種々の尾瀬の植物が植えられている。水芭蕉の群生地もあり、なかなか見応えがあった。季節によって種々の花が咲くが、今は水芭蕉とリュウキンカが主だ。鹿の食害を防ぐために3m四方位の針金製の囲いもあった。これまで見てきた所の木道は「環 H28」の焼き印だったが、この木には「TEPCO H27」の焼き印があった。東日本大震災後でも、東電は木道維持に費用負担をしているのだと分かった。有難いことです。(鳩待峠への木道も「TEPCO H27」だった。)

山小屋のそばの地面でかなり沢山の小さなツバメが土を突いている。虫を探しているのだろうか。そばの女性が“これはイワツバメよ！”と教えてくれた。山小屋の1階2階の軒下に泥の巣を作っている。今は快晴の天気だが、今日も午後から下り坂だ。

8時に尾瀬ロッジからリュックを取って、鳩待峠へ向かう。植物園にもあったが、月の輪熊除けのための鐘が2~3ヶ所にあった。やがて次々と日帰りで尾瀬にやってきた個人、団体に会う。トラピックス、クラブツーリズム、山の会募集の団体などなど。また赤羽の星美学園の小学4年生120名が下りてきた。長い長一い行列。

最後の少し急な石段を登って9時50分の鳩待峠へ到着した。途中では6人のボッカさんに会った。この広場にも生徒があふれていた。千葉県の鎌ヶ谷市立中学生230名と。この後も続々と小団体が来る。クラブツーリズムは広場で準備体操をして、あとは“行ってらっしゃい！何時までに戻ってこないとバスは発車してしまいますよ！”とやっていた(添乗員は行かない。)

小生は戸倉発14時30分発のバスタ新宿行きを予約していたが、13時30分発に変更することにして、戸倉へ下ることにした。9人乗りのマイクロバスで行くという。乗り合わせた広島在住の70歳台の人は、カメラを担いで20歳位から50年以上も、年数回もつばら尾瀬専門で通っていると。“尾瀬の生き字引だよ。”といばっていたが、11時20分には戸倉に着いたが、ここも大きく変わり、川向うに自家用車駐車場ができています。関越交通のバスターミナルも広くなった。早速予約変更したが、平日は空いていて楽でいいです。昼食を摂り、待合室で待つと、五郎の靴をはいているご夫婦がいたので、“五郎の靴ですね”と訊くとそうだという返事で、少し嬉しそうだった。

高速直通バス「尾瀬号」には乗客は、途中花咲温泉からの人も加えて15人ほどだった。渋滞はなく途中2ヶ所でトイレ休憩を取り、定刻より5分だが早い17時40分にバスタ新宿に着いた。

尾瀬では水芭蕉を十分堪能したし、平日移動で宿、交通機関も空いていて楽な旅をすることができた。尾瀬にはニッコウキスゲの時期に行ったことがないので、行きたいが今年は鹿に食べられてしまって全く期待できないそうである。また、ミネサクラが満開で、全く予想していなかったため感激した。途中すれ違い時挨拶すると、話し込んでいる人以外は返事が返ってくるのは良かった。というのは、牛首←→鳩待峠間以外には外国人が殆ど居なかったということだが。